

とはち通信

※長崎西南部の史蹟・名勝・天然記念物等の紹介通信

戸町玉蟬園

『長崎の史跡』（南部編）に「戸町カ
ルルス」という場所が存在したと記さ
れています。浴場のほか菖蒲・楓など
の植物があり、訪問客はそれらを見物
に来ていたそうです。現在、「戸町カ
ルルス」の跡地にはそこを運営された
方のご家族が在住されており話を聞く
ことができました。

そもそも「戸町カルルス」という名
称は正確な表現ではなく、正式には「戸
町玉蟬園（ぎよくせんえん）」という
呼び方が正しいとのご指摘を受けまし
た。カルルスはチェコスロバキアのカ
ルルスバードの鉱泉を結晶させ、それ
を湯に混ぜて沸かしたものです。確か
に浴場施設は玉蟬園にありましたが、
他の多くの植物の存在も忘れてはなり
ません。ご家族は浴場施設・植物など
を総称して「戸町玉蟬園」であると私
に言われました。戦前は「公園」の愛
称で親しまれていたそうで、また、他
に「菖蒲園」という愛称もあったそう
です。「戸町玉蟬園」の名称は『長崎
市史』に見ることができますが、ここ

創刊号

※一説によると、かつて長崎西南部一帯を総称して戸ハヶ浦（とはちがうら）
と呼ばれた時期がありました。現在、この名は存在しませんが、長崎西南
部に対する尊敬の念をこめてこのようなタイトルをつけてみました。

二〇〇八年七月一日 落矢八郎

でその文章を紹介してみましよう。

「戸町より三丁餘の山手に在り、園
内に浴場の設があり、藤、菖蒲、萩、
楓等園内を埋めて夏秋の眺殊に佳な
る爲め遊客の絶うることに無。園は
明治卅二年四月頃戸町の人藤田藤三
郎及び其の子東人の創設する所。園域
千餘坪施設整備し清遊に適する市南の一
名勝である。」

以上が当時紹介された記事です。こ
こで言う「山手」は今の上戸町に該当
します。玉蟬園は千坪以上の広大な敷
地を有し、訪問客の絶えることがない
場所であったと記述されていますが、
四季を通じてそれぞれの季節感を楽し
むことができる大変すばらしい場所
だった事が窺えます。

玉蟬園は明治三十二年に戸町在住の
藤田藤三郎・東人（とうじん）親子が
創設したとされていますが、ご家族の
祖父が東人氏・曾祖父が藤三郎氏であ
るとの事でした。したがって、取材し
たご家族は四代目となるわけです。ま
た、戸町神社の記念碑にも藤田親子の
名前を確認することができますが、神

社改築の際の世話役および寄付をされ
たようで、地域にも貢献されたことが
わかる資料だと言えます。玉蟬園は明
治・大正・昭和初期まで市南の一名勝
として繁栄しましたが、戦争の事態の
悪化に伴って菖蒲などの植物の一部は
水田に変えたそうです。これは食糧不
足の解消のためにやむを得なかったこ
とで、この時点で玉蟬園はその役割を
終えたと言っても良いかと思えます。

さらに、昭和二十年八月九日の原爆投
下では、園内の施設が爆風によって再
建する希望を失う程に全・半壊してし
まったそうです。

現在はこの地にたくさんの方が建っ
ています。付近を散策しましたが、か
つての面影に触れることはできません
でした。付近の住民の方々に玉蟬園の
事を尋ねると、一同に「知らない」と
言う答えしか返ってきませんでした。
それもそのはず、戦後新たにこの地へ
移住した人たちが戦前の玉蟬園のこと
は知るはずもないからです。一部の年
輩の方だけが知る話なのです。

この地にはかつて風光明媚な施設が

事務局
とはち
●ホームページ
●メール
h_ochiya@yahoo.co.jp

あつたとみなさんの頭の片隅に置いて
ください。（文責 落矢八郎）

【引用・参考文献】

- ・福田忠昭ほか 一九三八『長崎市史』
地誌篇名勝舊蹟部 長崎市役所
- ・原田博二 二〇〇二「戸町カ
ルルス跡」『長崎の史跡』（南部編）
長崎市立博物館

お知らせ

とはち通信は、不定期で発行する予
定です。できれば、月一回の発行を目
指し頑張りしたいと思います。情報提供
がございましたら、事務局の方まで連
絡をお願いします。

次号は創刊号と同じ戸町地区の事を
報告します。タイトルは「ふとした所
に……」です。お楽しみに！（あまり期
待しないで下さい）

写真図版 (長崎大学附属図書館所蔵)

上・下段は戸町玉蟬園の当時の状況を窺う事ができる写真です。今回、長崎大学附属図書館が所蔵している写真を添付させていただきました。その中に説明文がありましたので、ここで引用したいと思います。その後、写真の補足説明を簡単にしたいと思います。

「明治後期から大正期(一八九〇〜一九二〇)の水彩色の絵葉書『長崎戸町カルルスの菖蒲』と題された絵葉書。チエコ西部カルルスバートの鉱泉から、鉱泉の出る所がカルルスと呼ばれた。中島川中流の中川カルルスと共に、戸町カルルスが長崎の名勝地であった。」

上段の写真は西から東(現在の戸町バイパス)方向を撮影したものです。写真中央上に見える建物は神社だそうです。下段は園内の菖蒲の写真です。写真の両端に二棟の建物を見ることができですが、これはお座敷と言われる休憩所だったそうです。

※二枚の写真を提供していただいた長崎大学附属図書館に感謝を申し上げます。ありがとうございました。(落矢八郎)

